

2019年2月11日掲載

歯周病

糖尿病患者 発症率 2.6 倍

歯周病とは、歯周組織（歯ぐきや歯を支える骨など）に発生する疾患の総称です。近年、その歯周病が全身の健康に悪影響を及ぼすことが問題視され、その一つに糖尿病があげられます。糖尿病の合併症は腎症、網膜症、神経障害、大血管障害、細小血管障害が知られていますが、歯周病も6番目の合併症と位置付けられています。

糖尿病患者の歯周組織では、微小血管障害や、コラーゲンの合成低下の影響で歯周病菌に感染しやすくなります。また、血糖値の上昇に伴い、歯周組織の破壊が進行しやすくなると考えられています。そのため2型糖尿病患者では、非糖尿病患者に比べ、歯周病の発症率が2.6倍高いと報告されています。

歯周病を有する糖尿病患者では、内科における糖尿病治療と並行して、適切な歯周治療を行うことによって、合併症のリスクを低下させる可能性が示唆されています。歯周治療による糖尿病患者のHbA1c改善効果は、最大で1%前後であることが報告されていますが、今後さらなる検討が期待されています。

歯周病は「silent disease（静かなる病気）」と称されるほど自覚症状に乏しい疾患です。歯科医院では歯周ポケットの測定やレントゲン撮影をすることで、比較的簡単に歯周病の状態を検査することができます。気になる症状がある方は、早めの受診をお勧めします。